



タンクはシートに描いたイーグルから山脈と月をイメージしたベイントに。容量は10リットルほど



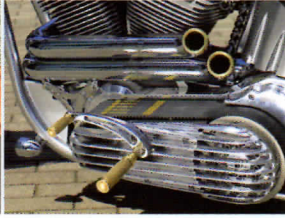
ヘッドカバーはカービントンのカスタムバンヘッドスタイル。キャブはS&SのG。PM油圧クラッチ



フォークは純正のデュース用。ホイールはPMのGASSER。ブレーキはブレノボを用いる



ブルオリジナル製作のシートに描いたイーグルはオーナーがイメージとしてリクエストしたもの



ベルトカバーはプライムシートのものをポリッシュしてミッド加工。ステップはトッズ



リアは乗りやすさを求めて200幅充分太い。ワンオフのブリーディスクでサイドをスッキリ

ベイスは2000年のFXST。フレームのサイズに対して、エンジンの存在感を増すため、カラーはロイヤルよりワントーン明るい色を選び、細部のパーツセレクトにも個性を持たせた



似て非なる個性を与えられたニュースクールチョッパー。

ROYAL CLOWNS

鈴木さんにシフトめえ、竹内は完全に乗せられ、西岡さんでもいちまっど前見辛いなぁ！とのこと。まさにアメリカ人サイズのチョッパーなのです





見事に右肩上がりな3人で乗った感じを比較してみます。こんな風にしてみたいの参考までにお楽しみください。

ダッタ竹内 167cm セレクトッド西岡さん 178cm セレクトッド鈴木さん 183cm

実際、ロイヤルクラウンズは純正フレームを基準に5インチ、アンティアズは2インチのストレッチ。サイズの変更にあわせてタイヤの幅などもバランスの取れた走りやすいサイズにすべて変更。それは乗りにくいと乗らなくなる、という西岡さんの経験に基づくもの。言っときますが常人が乗れるのは右のサイズです



ストレッチされたチョッパーは存在感バツグンでカッコよろしい。でもノーマルでも大きいと感じるくらいだから、乗れないだろうなあ…。そんな悩みを抱える平均的日本人身長のあなたはセレクトッドにぜひ相談を、なバイクが登場したのでご紹介しておく。

今やショップの看板となった「ロイヤルクラウンズ」(右のバイク)は身長183センチの鈴木さんに合わせて作ったため、実はかなり巨大憧れて「同じバイク作って」と依頼したオーナーさんは、上の写真のダッタ竹内と同じぐらいの身長で、同じカタチをダウンサイジングして作る、という大作戦が始まった。

「実は似ているけれどタンクのサイズやフェンダーの長さ、シートサイズもすべて違うんです。むしろ似せる目標があるだけに、映画のパート2みたいにならないよう個性を与えるのに苦労した」と西岡さん。オーナーの希望に、オーナーにピッタリと合うバイクで応えた。「ツインカムは毎日乗れるから良いんです。どこかが辛いとそれで乗らなくなってしまう。それじゃ本末転倒ですから」オーナーに合わせたバイクを作る、それがカスタムの醍醐味だ。

▶ ANTEARS



オーナーさんはダッタ竹内と同じぐらいの身長ということで、跨るシルエットになっています。鈴木さんにはやはり小さい感じ



チョッパーは大きすぎ!?

いえいえ、オーナーにあわせて作るのがカスタムなのです。

ストレッチされたチョッパーは大きくて存在感もバツグン。でもボクは背が低いから…そんな悩みは無用なのです。

text/A.Takeuchi 竹内淳 photo/S.Ise 伊勢悟
取材協力/SELECTED TEL045-252-2933 www.selected.co.jp